

## 2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年4月30日

上場会社名 株式会社篠崎屋 上場取引所 東  
 コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 関根 雅之  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営 企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実 TEL 048-970-4949  
 半期報告書提出予定日 2026年5月11日 配当支払開始予定日 ー  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	1,656	8.7	70	19.4	73	18.4	66	67.8
2025年9月期中間期	1,523	6.3	59	156.2	61	150.0	39	177.0

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	4.70	ー
2025年9月期中間期	2.80	ー

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	1,493	1,115	74.7
2025年9月期	1,364	1,048	76.8

（参考）自己資本 2026年9月期中間期 1,115百万円 2025年9月期 1,048百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2026年9月期	ー	0.00			
2026年9月期（予想）			ー	ー	ー

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2026年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

### 3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年9月期中間期	14,157,780株	2025年9月期	14,157,780株
2026年9月期中間期	一株	2025年9月期	一株
2026年9月期中間期	14,157,780株	2025年9月期中間期	14,157,800株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(中間損益計算書に関する注記) .....	7
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当中間会計期間において、商品につきましては、引き続き「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」を強化し、物価高騰の今後の対策として、顧客数の確保を第一に取り組んでまいりました。

当中間会計期間の売上高は1,656,653千円（前年同期比8.7%増）、営業利益は70,589千円（前年同期比19.4%増）、経常利益は73,217千円（前年同期比18.4%増）、中間純利益は66,526千円（前年同期比67.8%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （小売事業）

当セグメントにおいては「よりいいものをより安く」をコンセプトに「三代目茂蔵」ブランドのクオリティ向上を推し進めております。当中間会計期間におきましては、引き続き「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」を強化し、顧客数の確保及び、顧客単価の増加による収益強化に取り組んでまいりました。

当社売上の約90%程度を占める主要事業である小売事業につきましては、買いやすい価格帯に設定した新商品開発や既存商品の規格見直し強化を行い、値上げによる顧客数減少の対策と売上高の拡大に取り組んでまいりました。

店舗におきましては、引き続き開店時間から12時までの時間帯に「朝市」を開催し、購買意欲の高い顧客層の来店頻度の向上を図りつつ、更なる顧客数確保のため店頭商品の大幅な見直しを行い、リモート会議にて販売スタッフとの情報共有を徹底することにより1店舗あたりの生産性向上を目指しました。

これらにより1店舗平均の顧客数は前年同期比102.6%、顧客点数は同101.6%となりました。

又、催事販売では、常設店舗をもたずに茂蔵を定期的に体験できるリアル無店舗販売をコンセプトとし、既存取引先では長期催事の開催、新規取引先では国分寺マルイ店、京王聖蹟桜ヶ丘店等の好立地に出店を行い売上高の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、小売事業の売上高は1,498,096千円（前年同期比10.1%増）となりました。セグメント利益（営業利益）につきましては、顧客数の増減を慎重に判断しながら商品規格を見直した結果、売上総利益率が改善したことにより134,838千円（前年同期比3.6%増）となりました。

#### （その他事業）

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は158,556千円（前年同期比2.8%減）、セグメント利益（営業利益）は10,090千円（前年同期比0.3%増）となりました。

なお、当中間会計期間の出店状況は、次のとおりであります。

（単位：店）

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当中間期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」（直営店）	30	—	—	30
その他事業	「三代目茂蔵」（加盟店）	389	10	12	387
合計		419	10	12	417

（2）財政状態に関する説明

① 財政状態

（資産）

当中間会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して128,640千円増加し1,493,400千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加112,465千円及び、売掛金及び契約資産の増加14,501千円、一方で水海道工場の売却代金回収及び、小山工場の機器売却による増加により長期未収入金の減少8,872千円等によるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して62,113千円増加し378,164千円となりました。主な要因は、買掛金の増加70,474千円、未払法人税等の減少10,453千円等によるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して66,526千円増加し1,115,236千円となりました。これは減資により資本金を900,000千円減少させ資本剰余金へ振替したこと、剰余金の処分として資本剰余金を71,630千円減少させ利益剰余金へ振替したこと及び、中間純利益66,526千円の計上により利益剰余金が138,157千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して112,465千円増加し722,122千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、121,235千円（前年同期は111,742千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前中間純利益73,136千円、仕入債務の増加70,474千円、減少要因として売上債権の増加14,501千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、8,769千円（前年同期は8,258千円の収入）となりました。これは主に、減少要因として有形固定資産の取得による支出27,974千円、増加要因として長期未収入金の回収による収入18,804千円等、によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における財務活動による資金の増減はありませんでした（前年同期は増減なし）。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。

なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当中間会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	609,657	722,122
売掛金及び契約資産	62,905	77,406
商品及び製品	46,715	54,772
原材料及び貯蔵品	2,757	3,407
その他	68,458	70,980
貸倒引当金	△40	△50
流動資産合計	790,454	928,639
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	29,227	26,025
構築物(純額)	2,256	1,974
工具、器具及び備品(純額)	9,820	11,420
土地	189,970	189,970
その他(純額)	918	2,619
有形固定資産合計	232,193	232,010
無形固定資産	2,370	1,871
投資その他の資産		
敷金及び保証金	104,538	104,538
長期未収入金	235,050	226,177
その他	243	243
貸倒引当金	△90	△80
投資その他の資産合計	339,741	330,878
固定資産合計	574,305	564,761
資産合計	1,364,760	1,493,400
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	187,584	258,059
未払金	63,291	60,568
未払費用	37,103	42,793
未払法人税等	20,277	9,824
その他	3,093	2,217
流動負債合計	311,350	373,464
固定負債		
長期預り保証金	4,700	4,700
固定負債合計	4,700	4,700
負債合計	316,050	378,164
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000,000	100,000
資本剰余金	120,340	948,709
利益剰余金	△71,630	66,526
株主資本合計	1,048,709	1,115,236
純資産合計	1,048,709	1,115,236
負債純資産合計	1,364,760	1,493,400

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,523,398	1,656,653
売上原価	1,047,041	1,138,713
売上総利益	476,357	517,939
販売費及び一般管理費	417,214	447,349
営業利益	59,142	70,589
営業外収益		
受取利息	2,186	2,420
受取賃貸料	4,911	4,314
その他	456	214
営業外収益合計	7,553	6,948
営業外費用		
賃貸費用	4,864	4,304
その他	0	16
営業外費用合計	4,865	4,320
経常利益	61,831	73,217
特別利益		
固定資産売却益	—	1,598
その他	—	10
特別利益合計	—	1,608
特別損失		
減損損失	7,717	611
固定資産除却損	24	1,079
店舗閉鎖損失	2	—
特別損失合計	7,744	1,690
税引前中間純利益	54,086	73,136
法人税、住民税及び事業税	14,448	6,609
法人税等合計	14,448	6,609
中間純利益	39,637	66,526

（3）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2024年10月1日 至 2025年3月31日）	当中間会計期間 （自 2025年10月1日 至 2026年3月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益	54,086	73,136
減価償却費及びその他の償却費	4,345	7,073
減損損失	7,717	611
受取利息及び受取配当金	△2,186	△2,420
為替差損益（△は益）	△3	—
固定資産売却損益（△は益）	—	△1,598
固定資産除却損	24	593
売上債権の増減額（△は増加）	△3,698	△14,501
棚卸資産の増減額（△は増加）	△3,706	△8,706
仕入債務の増減額（△は減少）	46,963	70,474
未払金の増減額（△は減少）	4,782	△101
未払消費税等の増減額（△は減少）	8,733	1,467
その他	5,487	5,183
小計	122,546	131,212
利息及び配当金の受取額	2,186	2,420
法人税等の支払額	△12,990	△12,397
営業活動によるキャッシュ・フロー	111,742	121,235
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,545	△27,974
有形固定資産の売却による収入	—	600
無形固定資産の取得による支出	—	△200
敷金及び保証金の差入による支出	△15	—
敷金及び保証金の回収による収入	15	—
長期未収入金の回収による収入	18,804	18,804
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,258	△8,769
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	—
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	120,003	112,465
現金及び現金同等物の期首残高	518,524	609,657
現金及び現金同等物の中間期末残高	638,527	722,122

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2025年12月16日開催の第39期定時株主総会の決議に基づき、2026年1月26日付けで減資の効力が発生し、当中間会計期間において資本金が900,000千円減少、その他資本剰余金が900,000千円増加しております。またその他資本剰余金71,630千円及び、利益準備金17,094千円を繰越利益剰余金に振り替えることで、欠損填補に充当しております。

この結果、当中間会計期間末において資本金が100,000千円、資本剰余金が948,709千円となっております。

（中間損益計算書に関する注記）

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
給料手当	45,263千円	49,024千円
雑給	120,807	138,163
地代家賃	99,037	109,999

（中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	638,527千円	722,122千円
現金及び現金同等物	638,527	722,122

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,360,319	163,079	1,523,398	-	1,523,398
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,360,319	163,079	1,523,398	-	1,523,398
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,360,319	163,079	1,523,398	-	1,523,398
セグメント損益	130,151	10,060	140,211	△81,069	59,142

(注) 1. セグメント損益の調整額△81,069千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、7,717千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,498,096	158,556	1,656,653	-	1,656,653
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,498,096	158,556	1,656,653	-	1,656,653
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,498,096	158,556	1,656,653	-	1,656,653
セグメント損益	134,838	10,090	144,928	△74,338	70,589

(注) 1. セグメント損益の調整額△74,338千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、611千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。